

母性看護学実習	3年・前期	2単位 2週間	教授 堀金 幸栄 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310863

### 1. 授業のねらい・概要

周産期にある母子とその家族を対象に、学生が個々の健康ニーズを把握し、健康の保持増進や健康上の問題を解決する援助方法を学び、母性看護の基礎的能力を養うことを目的とする。

### 2. 学修の到達目標

1. 妊娠期、分娩期の看護と看護技術について理解できる。(D-2)
2. 妊娠期の母子の健康状態をアセスメントすることができる。(D-2)
3. 妊産婦に必要な看護について理解を深めることができる。(D-2)
4. 褥婦の妊娠、分娩期の健康状態をアセスメントし、必要な援助を判断できる。(D-2)
5. 褥婦の心身の変化と母親への適応過程を判断できる。(D-2)
6. 新生児の胎外生活への適応過程を判断できる。(D-2)
7. 退院後の生活について考察できる。(D-2)
8. 専門職としての態度を養うことができる。(D-2)

### 3. 授業の進め方

母性看護学実習要項を参照のこと。

#### 【アクティブ・ラーニング実施の有無】

実習前の課題は、Google classroom で配信する。指定された動画を繰り返し視聴して、必要な看護技術の手技を確実に覚え、実践練習をしてから教員と共に受け持ち対象に実践する。

#### 【ICT活用の有無】

臨地実習前の学内実習では、母性看護学に関連する指定された視聴覚教材を視聴し、自己学習ノートにまとめる。

### 4. 授業計画（実習/実技）

1. 実習期間：令和8年5月～7月の間で実習を行う。
2. 実習施設：横田マタニティーホスピタル
3. 実習内容：母性看護学実習要項参照
4. 実習前学習：知識・技術確認試験を実施する。
5. 実習後学習：実習での学びを実習記録にまとめる。知識・技術確認試験を実施する。

### 5. 成績評価の方法・基準

3分の2以上の出席を条件とし、実習状況・実習記録を合わせて80%、実習前後の知識・技術評価試験20%で、総合的に評価する。ただし、実習と知識・技術評価試験は、それぞれ60%以上得点していること。実習中の評価は学修目標の到達度を示す実習評価表を基に評価する。また実習前後の知識・技術評価試験の評価は、評価項目・基準・方法の詳細（ルーブリック評価使用）を学生に説明する。

## 6. テキスト・参考文献

- テキスト：1) 小林康江 他 (2023) ナーシンググラフィカ 母性看護の実践, メディカ出版 (最新版)
- 2) 石村由利子 他 (2026) 根拠と事故防止からみた母性看護技術, 医学書院 (最新版)
- 3) 日本助産診断実践学会 (2025) マタニティ診断ガイドブック (第7版) 医学書院 (最新版)

参考文献：森恵美他 (2026) 系統看護学講座 母性看護学各論 (第15版) 医学書院 (最新版)  
講義で配布した資料, その他の参考文献は実習中に随時紹介する。

## 7. 準備学習に必要な時間, 又はそれに準じる程度の具体的な内容

事前学習として, 妊娠期～産褥期, 新生児に関する課題を完成させて学習しておくこと。  
講義で配布した資料を参考に基準値などミニノートにまとめ覚えておくこと。  
指定教科書の動画を繰り返し視聴し, 必要な看護技術の手技を確実に覚えること。  
臨地実習開始前までに, 必要な看護技術をそれぞれ5回以上練習して実習に臨むこと。

## 8. 受講上の留意事項

実習オリエンテーションの内容を十分理解し, 対象の健康を害することなく必要な看護を実践できるよう十分に準備すること。

## 9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された事前学習課題や実習記録は, 教員が内容を確認して返却する。内容の不備なものは再提出を求める。ただし, 実習記録物は返却しない。

## 10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり, 修得できない場合進級不可となる。

## 11. 該当する本授業は, 以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における助産師としての実務経験を活かして, 実習の指導を行う。